

コロナ禍における JS 国際業務 ～ICT の活用を考える～

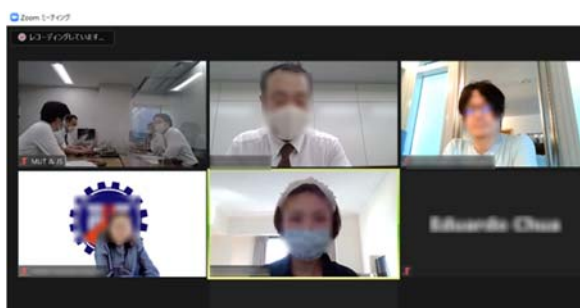
JS 国際戦略室

新型コロナウイルスの影響で、今までのように現地渡航して対面打合せや調査をすることができない状況です。このような中で ICT の活用が有意義であることを実感しています。

もちろん、ICT の活用は必要条件であって十分条件ではありません。特に、案件形成調査については、現地の状況等を調査する必要があります。そのため、JICA 長期専門家や現地に拠点や協力企業を有するコンサルタント等のお力添えをいただきながら業務を進めています。

また、現地政府との打合にあたっては、相手方が初めて接する方ですと、初回のミーティング開催日時調整だけでも非常に苦労します。現地大使館や JICA 現地事務所の職員の方々のご協力を得て、ようやく日程が決まるというように、非常に時間がかかります。

WEB ミーティングを実施できても対面とは違い、こちら側の「熱意」が伝わりにくいことを実感します。特に相手方にお願ひ事をする時には、「水環境を良くしたい。そのために、あなたにお願ひ事を



AWaP 担当窓口との Zoom ミーティング

したい」という様なこちら側の熱意が非常に大切ですが、WEB では熱が伝わりにくく、ミーティング後にお願ひしたことがスルーされてしまうこともありますし、期待する回答が出てこないことも多く、二度手間・三度手間になることが多々あります。

Ecosystem	2019				2020				Change
	Value	Unit	Value	Unit	Value	Unit	Value	Unit	
Aeration	0	0	87	30	87	30	0	Kilograms	
Wood	0	6,630	6,904	0	5,896	0	0	Kilograms	
Green	0	6,621	5,127	0	4,238	0	0	Kilograms	
Brown	0	260	262	260	0	0	0	Kilograms	
Sedimentation	0	262	20,426	20,426	20,426	20,426	20,426	Kilograms	
Nutrient purification	0	14,900	29,022	15,364	23,572	14,864	0	Kilograms	
Sludge and DN, PF	0	1,829	1,829	1,829	1,829	1,829	0	Kilograms	
Sanitization (N, P)	0	5,846	69,064	4,128	10,894	4,128	0	Kilograms	
Plant absorption (N, P)	0	7,215	5,772	0	4,752	0	0	Kilograms	
Water recycling	0	0	2,237	2,237	6,797	6,797	0	Kilograms	
C. working	0	0	3,242	3,242	3,242	3,242	0	Kilograms	
Water recycling	0	567	30,501	30,501	30,501	30,501	0	Kilograms	
Carbon storage	0	3,421	2,737	2,808	2,237	2,808	0	Kilograms	
Microplastic	1,381	1,381	1,343	1,343	2,037	2,037	374	Kilograms	
Opportunities	1,381	35,983	100,561	78,823	87,857	78,817	374	Kilograms	
Subtotal per ha	-32,500	-32,500	-32,500	-32,500	-32,500	-32,500	-32,500	Kilograms	
Fish recreation	-50,400	-50,400	-50,400	-50,400	-50,400	-50,400	-50,400	Kilograms	
Residing Assembly	-50,400	-50,400	-50,400	-50,400	-50,400	-50,400	-50,400	Kilograms	

WWW ウェビナー2020 の画面

一方で ICT 活用のメリットが大きいものとして、ウェビナーがありました。昨年度、スウェーデンのストックホルムで開催された世界水週間 (WWW) に参加させていただきましたが、成田から十数時間の移動の必要がありました。時差の問題はあるものの、今年度はウェビナーで水週間が行われ、自宅で講演を聴講することができました。

今、現地に渡航し、現地の風土や文化の中での打合せや調査ができないのは非常に残念ですが、私たちは新型コロナウイルスをきっかけに ICT の活用方法を入手し実感しました。

ポストコロナにおいては、「現地渡航」と「ICT 活用」とのハイブリッドな業務手法で、効果的に世界の水環境を改善していくことに JS 国際業務が貢献していきたいと考えています。それが、新型コロナウイルスでお亡くなりになった方々に対する供養の一つになるという気持ちで、今後とも全力で JS 国際業務を進めてまいりたいと考えています。